

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒状況（技術情報第13号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は平年より低い状態が継続しており、イネ縞葉枯病の発生は少ないと予想される。

1 調査結果の概要

5月中旬に県下11地点（植生：麦類、イタリアンライグラス、雑草）からヒメトビウンカ（成虫および幼虫）を採集し、簡易ELISA法を用いてイネ縞葉枯ウイルス保毒虫検定を実施した。結果は以下のとおりであった。

- （1） 保毒虫は3地点で確認された。保毒虫率の平均値は0.6%で平年より低く（平年2.3%）、前年並（前年0.4%）であった（表1、図1）。
- （2） 近年、県内の保毒虫率は低い状態が続いている（図1）。

2 今後の留意点

ヒメトビウンカは収穫後の稲株や水田・畦畔のイネ科雑草、麦類、イタリアンライグラス等で越冬し、翌春水稻が移植されると飛来してウイルスを媒介する。現在、ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒率は平年より低いですが、イネ縞葉枯病の発生が多かったほ場では以下の対策を行う。

- （1） 水田を耕起し、収穫後の稲株やイネ科雑草を鋤き込む。
- （2） 冬作（麦類、イタリアンライグラス等）を栽培している場合は、冬作収穫前に畦畔や周辺雑草を除草し、水稻へ移出する前の飛来源にならないようにする。
- （3） イネ縞葉枯病が問題となる水田では、イミダクロプリド、フィプロニルに対しヒメトビウンカの感受性が低下しているため、箱施薬剤の選定に注意する（平成31年4月19日付技術情報第1号参照http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto/H31/yosatu/190419gi_jyutu.pdf）。

表1 ヒメトビウカカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫検定結果(令和2年5月)

No.	地点名	検定数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
1	玉名市小島	100	0	0.0
2	山鹿市鹿央町	100	0	0.0
3	菊池市赤星	100	0	0.0
4	大津町陣内	55	0	0.0
5	嘉島町上六嘉	100	0	0.0
6	甲佐町下横田	100	2	2.0
7	氷川町若洲	100	0	0.0
8	錦町木上	22	0	0.0
9	あさぎり町上	15	2	13.3
10	多良木町久米	8	0	0.0
11	農業研究センター	100	1	1.0
合 計		800	5	0.6
昨 年 値				0.4
平 年 値 (過 去 10 年 の 平 均)				2.3

※本年は簡易ELISA法、平年値は簡易ELISA法(H27～R1)と高比重ラテックス凝集反応法(H22～H26)による検定結果をもとに算定

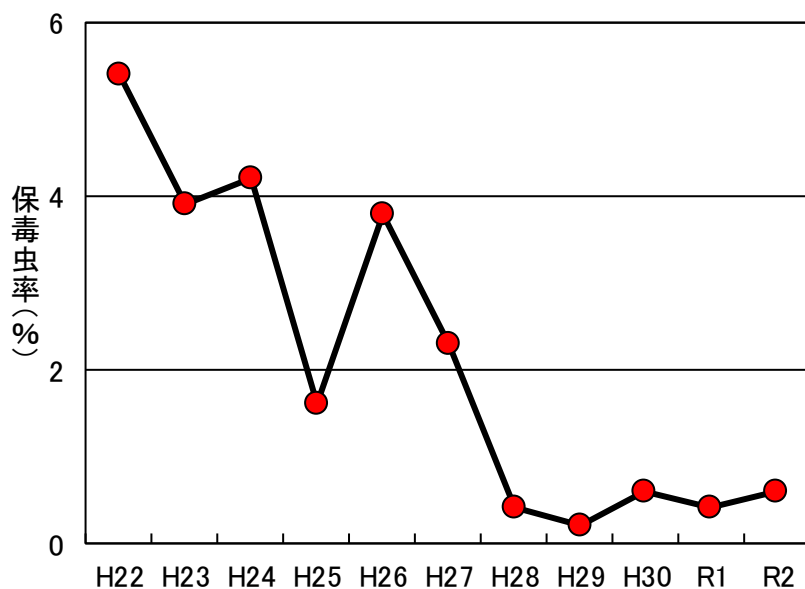


図1 イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移